

**交信かく乱剤コンフューザーMMによるナシヒメシクイの被害軽減**

交信かく乱剤コンフューザーMMは、5月下旬頃に設置するとナシのナシヒメシクイに対する誘引阻害効果が収穫期まで継続し、「幸水」「豊水」果実に対する被害抑制効果がある。

農業研究センター果樹研究所病虫化学研究室（担当者：杉浦直幸）

**研究のねらい**

近年、ナシのナシヒメシクイの被害が多発傾向にあり、多発園では収穫前の臨機防除が頻繁に行われている。ナシヒメシクイの防除対策として、以前より交信かく乱剤（コンフューザーNなど）の利用が一部のナシ生産農家で試行されてきたが、安定した防除効果が見られず、交信かく乱剤の普及は一部の地域に留まっている。そのようななかで、改良型の交信かく乱剤コンフューザーMM（以下、コンフューザーMM）が登場し、ナシ・モモのナシヒメシクイに対する防除効果が期待されている。そこで、現地ナシ園でのコンフューザーMMによるナシヒメシクイの被害軽減効果を明らかにする。

**研究の成果**

1. 慣行防除園で5月下旬にコンフューザーMMを設置すると、フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺数が極めて少なくなり、高い誘引阻害効果があり、誘引阻害効果は収穫期まで持続する（図1、図2）。
2. 果実へのナシヒメシクイ被害抑制効果については、コンフューザーMM設置区の方が未設置区よりもやや優れる（表1、表2）。

**普及上の留意点**

1. 本剤は、ナシヒメシクイ、リンゴコカクモンハマキ、モモハモグリガ、モモシクイガ、チャノコカクモンハマキの交信かく乱剤として登録がある。
2. ナシ園でのコンフューザーMMの設置は、交信かく乱の効果を収穫期まで持続させるため5月下旬に行い、2ha以上の広範囲に設置する。ディスペンサーは、8割を圃場内に、2割を圃場周辺に設置する（10a当たり100本～120本）。
3. ナシヒメシクイの被害多発園では、コンフューザーMMの設置後も、交信かく乱剤の効果を確認し、発生に応じて臨機の薬剤防除を行う。

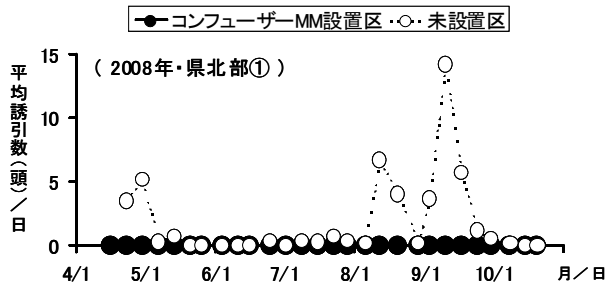


図1 フェロモントラップによるナシメシクイ雄成虫の誘引消長(2008年県北部①)

- 注1) コンフューザーMMは2008年5月26日に設置した。
- 注2) コンフューザーMM設置区、未設置区の圃場面積は40a, 30a。
- 注3) 各点の誘引数は、トラップ2基(圃中央部と周辺部)からの平均値。
- 注4) コンフューザーMM設置区、未設置区ともに慣行防除を実施。

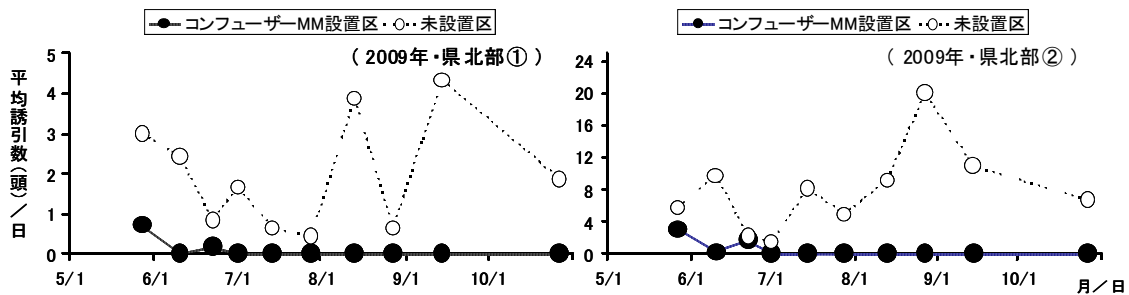


図2 フェロモントラップによるナシメシクイ雄成虫の誘引消長(2009年県北部①, ②)

- 注1) 両地域ともに、コンフューザーMMは2009年5月27日に設置した。
- 注2) 両地域ともに、コンフューザーMM設置区、未設置区の圃場面積は90a, 60a。
- 注3) 各点の誘引数は、トラップ2基(圃中央部と周辺部)からの平均値。
- 注4) コンフューザーMM設置区、未設置区ともに慣行防除を実施。

表1 ナシメシクイによる被害抑制効果(「幸水」)

調査日	地域	処理 <sup>注1)</sup>	調査果数(個)	被害果数(個)	被害率(%)	p値 <sup>注2)</sup>
2009/7/28	県北部①	コンフューザーMM設置区	904	2	0.2	p=0.028
		未設置区	1103	12	1.1	
2009/7/28	県北部②	コンフューザーMM設置区	1241	1	0.1	n. s.
		未設置区	952	3	0.3	

注1) コンフューザーMM設置区、未設置区ともに慣行防除を実施。

注2) Fisherの正確検定

表2 ナシメシクイによる被害抑制効果(「豊水」)

調査日	地域	処理 <sup>注1)</sup>	調査果数(個)	被害果数(個)	被害率(%)	p値 <sup>注2)</sup>
2008/8/29	県北部①	コンフューザーMM設置区	1110	0	0.0	n. s.
		未設置区	1032	0	0.0	
2009/8/27	県北部①	コンフューザーMM設置区	1223	0	0.0	n. s.
		未設置区	1123	0	0.0	
2009/8/27	県北部②	コンフューザーMM設置区	1171	0	0.0	p<0.0001
		未設置区	1144	27	2.4	

注1) コンフューザーMM設置区、未設置区ともに慣行防除を実施。

注2) Fisherの正確検定